



No. 74

2010. 7.

フキノトウ専用のフキ新品種 「あわ春香」(あわはるか)

フキノトウは春を告げる山菜として人気が高い中山間の特産物です。しかし、出荷されるフキノトウは山採りが多く、収穫は1～2月が中心であり、特に需要が増加する3月以降の安定出荷と均質化が求められていました。

そこで農業研究所では、平成16年から晩生で品質収量性の高いフキノトウ収穫専用品種の育成に取り組み、野生フキ14系統の中から選抜した本種を品種登録出願し、平成22年6月14日出願公表されました(出願番号第24668号)。

「あわ春香」の特性

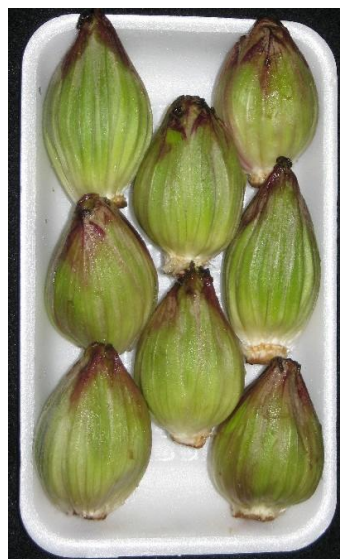
- ①トウの開きが遅い(3月16日の開苞率5.8%)。
- ②トウの形状は卵型でよく締まり、苞葉は47枚と多く調製に有利である。
- ③トウ1個当たりの平均重量は19.1gと大型で、8g以上のトウが70%以上を占める。
- ④1株あたりのトウ発生数は9.9個、10a当たり収量は369kgと多い。

栽培上の留意点

- ①水はけが良く保水力のある半日陰が適地で、中山間の遊休農地が活用できる。
- ②本種の性別はメスであるため、結実による混種を避け、形質の維持に努める。
- ③雑草、日焼け、栽培化に伴う病害虫に注意。農薬は登録内容をよく確認し使用する。



収穫期の「あわ春香」(H21.3.13 三好市)



「あわ春香」の荷姿(1パック50g以上)

徳島県内に限って栽培でき、苗は利用権許諾契約を結んだ農協等から購入できます。詳しいことはお問い合わせください。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 中山間担当

TEL (0883) 72-0239

FAX (0883) 72-6868

<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/nouken/>